

<学校名> 草加市立八幡小学校
<所在地> 草加市八幡町65-65
<電話> 048-936-6293
<本事例の特徴>

本校では児童一人一人に個人タブレットを配付し、様々な教育活動で活用している。一人1台の端末があることを生かし、外国語におけるICTを活用した取組について紹介する。

<具体的な取組や成果>

○外国語におけるICTを活用した取組

第5学年 Lesson5 「Where is your treasure?」～道案内の練習～

- ・プログラミングソフト Scratch と個人タブレットの音声認識機能を併用し、道案内のフレーズを何度も繰り返し練習をした。自分の声そのまま英文になることが嬉しかったようで、楽しみながら英語を発声していた。音声認識レベルが高かったようで中々思うように入力されない児童もいたが、「次はちゃんと聞き取ってもらいたい」と休み時間に練習していた。
- ・Google Map を使い、自分の学校の周りにあるお店屋さんまでの道案内をした。実際にある道や建物を使ったことで、目的・場面・状況がより具体化された。いつも以上に活動への意欲が高まった。



○児童の感想より（一部）

自分の声が英語の文になるのはすごいと思った。ゴーストレイトが、ゴーストライクになってしまったので、発音良く英語を喋れば良いなと思った。休み時間に練習したいと思った。

自分の知っている道が画面に出てきて楽しかった。本当に外国人に道を聞かれたら、ちゃんと言えるか不安だけど、3つの文だけなら言えそう。他の英語も言えれば良いなと思った。

- 個人タブレットを使うことで、普段のペアやグルーptークに比べて、児童が英語を話す機会を大幅に増やすことができた。個人タブレットを使っていると、間違いに対する意識が変わるようで、何度も何度も挑戦していた。
- アプリを使って個人タブレットに向かって英語を発声することは、自分の発音を確認するのに有効である。そこで身に付けた発音を活用しながら、目的・場面・状況を設定し、自分の思いや考えを発信する機会をより多く設定していく。